

## 立山町公共交通活性化協議会交通WG（第1回）の開催結果について

### 1 会議の概要

- (1) 日 時 令和7年1月23日（木） 13時42分～15時12分
- (2) 出席者 交通WG構成員 10人
- (3) 議 事
  - ① 立山町の公共交通の現状等について
  - ② 事業者ごとの交通事業の現状、課題等について
  - ③ 立山町の公共交通全体における各交通事業者の役割について

### 2 主な意見

- (1) 事業者ごとの交通事業の現状、課題等について

<ul style="list-style-type: none"> <li>・いずれの事業者も、最大の課題として「運転手不足」をあげている。</li> <li>・行政からは、人材確保のためのイベントや宣伝費、駅のハード整備やイベントへの支援について紹介があった。</li> </ul>
---

発言者	意見概要
鉄道事業者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>運転士不足が大きな課題</b>である。また、コロナ禍以降の<b>収支はかなり悪化</b>している。立山黒部アルペンルートへ行く利用者は回復しつつあるものの、通学定期券利用者は減少している。</li> </ul>
バス事業者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>人材不足が深刻化</b>しており、働き方を変えていきたい。立山町に乗り入れるバス路線の<b>乗車率は年々低下</b>している。路線バスでは鉄道線で担える場所は極力運行しない方針である。</li> <li>・<b>運転手不足</b>により運行に苦戦している。求人に対する応募はあるが採用には至らない場合がある。<b>業績は回復傾向</b>にあるものの、貸切バスは予約の多くを断らざるを得ない状況である。</li> <li>・<b>利用者はコロナ禍以降若干減少</b>している。<b>車両の維持管理費や修繕費の増加</b>で赤字も増加している。今後は、ニーズを把握した上で、どのように効率的な運行ができるかを考えていかなければならない。</li> </ul>
タクシー事業者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>人員の確保が課題</b>である。また、一日の時間帯によって繁閑差があるため、正社員が雇えない状況であり、人の流れができる取組を期待している。</li> <li>・<b>運転手確保が最大の課題</b>で、応募が無い若しくは採用に至らない状況である。また、売上が上がらないため、人員確保が困難である。</li> </ul>
介護タクシー事業者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最大の課題である<b>資格保有者の人材確保</b>のほか、要介護者の通院移動の依頼を受けきれない点や運行の遅延、運行中の介助における性別の壁などが課題としてある。また、介護保険制度が事業の足かせとなっている面もある。</li> </ul>
行政	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国土交通省の役割は、問題の解決のために<b>共に考え支えていくこと</b>である。運転手不足への対応策としては、運送業を身近に感じてもらう<b>イベントを開催</b>しているほか、二種免許の取得や採用活動に係る<b>宣伝費の補助</b>を実施予定である。</li> <li>・人材確保の視点でこれほど多くの発言があるケースはあまりない。県としては、<b>駅を中心としたまちづくり</b>への県民参画の面で取り組む余地があると考えている。駅のハード整備に合わせてイベントを実施し、県民や町民を巻き込み、まちづくりと一体となって取り組むことが公共交通の活性化につながることから、<b>ハード整備やイベント開催への県の支援制度</b>を活用してほしい。このほか、県は、人材確保に向けたPR、イベント開催等を通じ、イメージアップ策も行っている。</li> </ul>

(2) 立山町の公共交通全体における各交通事業者の役割について

- ・事業者からは、通勤通学や観光、高齢者の通院や買い物、冠婚葬祭、深夜帯における役割等について発言があった。
- ・行政からは、多様な関係者が共創する事業等の紹介とともに、各事業者の役割分担による公共交通のネットワーク構築が重要との意見があった。

発言者	意見概要
鉄道事業者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鉄道の役割は、市町村をまたぐ<u>通勤通学</u>の移動を支えることや<u>立山黒部アルペンルート</u>の玄関口までの<u>運行</u>である。全てのサービスを<u>赤字のまま</u>で<u>運行し続けるのは困難</u>である。</li> </ul>
バス事業者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バスでは<u>通学</u>の移動や<u>五百石駅から蔵本</u>への移動を担うことを心がけている。運行全体としては、鉄道線で賄える地域やタクシー事業者の担える<u>深夜帯は行わない方針</u>である。</li> <li>・スクールバスとコミュニティバスの両方の<u>ダイヤやルートを合理化</u>することで、運転手不足を解消できる可能性もあると思われるため、町でも検討してほしい。</li> <li>・町では「<u>たてポ</u>」に加え、町内区間限定のバスや電車の<u>定期券を発行</u>しており、毎月これらを購入しに来られる方がいる。町営バスを目的地まで直接運行してほしいといった要望もあるが、<u>民間の事業を圧迫しない</u>ような役割を考えていきたい。また、町営バスとスクールバスを兼ね合わせた運行についても事業者と連携して考えていきたい。</li> </ul>
タクシー事業者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・五百石駅周辺では深夜帯のタクシー利用者がおらず、<u>深夜帯のタクシー運行の方針</u>について見当がつかっていない。立山町では<u>高齢者の約7割が「たてポ」</u>を利用している。</li> <li>・タクシーは、金、土曜日以外は立山町で<u>深夜帯の待機をしておらず</u>、終電で乗り越した場合の依頼にのみ対応している。日中の利用者の約9割は<u>高齢者で、通院や買い物の移動</u>であり、業務利用は少なくなっている。</li> </ul>
介護タクシー事業者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護タクシー事業では<u>質の高い人材の確保</u>等をしていかなければならないと思っている。今後は、<u>観光</u>ができるサービスや<u>冠婚葬祭</u>の出席ができるサービスを提供したいと考えている。</li> </ul>
行政	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国土交通省は<u>多様な関係者が共創する事業</u>に加え、新たに<u>交通空白解消に関する事業</u>も創設したため、様々な補助メニューを紹介するなどして協力していきたい。</li> <li>・県では鉄道やバス、タクシーがそれぞれの役割を果たしつつ<u>公共交通のネットワークを構築することが重要</u>だと考えており、様々なことを議論の場で検討していきたい。今後は<u>公共交通の需要</u>そのものを増やしていくことが重要だと思う。</li> </ul>

# 立山町公共交通活性化協議会交通WG構成員名簿

(令和6年12月12日現在／敬称略)

区分	構成員となる団体等の名称	役職	氏名	備考
行政(町)	立山町企画政策課	課長	瀬本紀子	WG長
公共交通事業者 (鉄軌道)	富山地方鉄道株式会社鉄軌道部	営業課長代理	住田直磯	
公共交通事業者 (バス)	富山地方鉄道株式会社自動車部	部付部長兼運行管理 課長	中松清孝	
公共交通事業者 (バス・タクシー)	アルペン交通株式会社	代表取締役	梶原仁嗣	
公共交通事業者 (タクシー)	立山交通合資会社	代表社員	高田英司	
公共交通事業者 (タクシー)	旭自動車株式会社	代表取締役	駒井周一郎	立山協和営業所
公共交通事業者 (タクシー)	株式会社ケアサポートコウセイ	代表取締役	竹内功造	やまの湯介護タクシー
行政(国)	国土交通省北陸信越運輸局 富山運輸支局	首席運輸企画専門官 (企画調整担当)	景山隼人	
行政(県)	富山県交通政策局地域交通・新 幹線政策室交通戦略企画課	主幹	谷村和則	
行政(町)	立山町住民課	課長	林弥生	

事務局		課長補佐 まちづくり係長	中川大輔	
事務局		主任	浦田亮佑	
事務局		主事	前里樹	